

プレスリリース
報道関係者各位

2015FY008

2016/2/2

「新しい東北」官民連携推進協議会

『新しい東北』交流会 in 仙台 取材申し込みについて

「新しい東北」官民連携推進協議会では、東日本大震災から5年を前に、これまでの復興支援の成果・課題を振り返りながら、この先の復興の在り方・課題を議論するパネルディスカッションや、復興の現場で「新たな挑戦」に取り組む90を超える団体のブース展示などを行う交流会を2月11日（木・祝）に、仙台サンプラザホールとホテルで大規模に開催いたします。

ぜひ当イベントの告知へのご協力と、当日のご取材をご検討下さいますよう、お願い申し上げます。取材をご希望の方は、別添の取材要望シートに必要事項をご記入いただき、FAX（03-3591-8777）にてご返送ください。

■開催日時 平成28年2月11日（木・祝）13:00-17:45（12:30開場）

■開催場所 仙台サンプラザホール・ホテル
（宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1）

■参加対象者 どなたでもご参加いただけます。

■主なプログラム

- これまでの復興支援の成果・課題を振り返り、今後の「復興・創生期間」における復興支援の在り方・課題について、NPO、支援団体、民間企業、自治体等、様々な立場から議論するパネルディスカッション
- 「コミュニティ形成」「産業・生業の再生」など様々な分野で、「新たな挑戦」に取り組んでいる事業者・支援団体によるプレゼンテーション、ブース出展 等

※当交流会はマスコミオープンです。

別添の取材案内（取材要望シート付）とプログラム（2/2 暫定版）をご覧ください。交流会の概要は以下のURLでもご紹介しております。

http://www.newtohoku.org/works_detail_015

【本件に関する報道関係の問合せ先・取材申込先】

「新しい東北」官民連携推進協議会 事務局

（みずほ総合研究所 社会・公共アドバイザー部内）

岩城・水野

TEL：03-3591-8773（平日9:30-17:30）

FAX：03-3591-8777

Email：nt-info@mizuho-ri.co.jp

【告知のお願い | 取材のご案内】

復興庁・「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

東北各地で生まれた「新たな挑戦」を紹介し、今後の復興の在り方を皆様と一緒に考えます

『新しい東北・交流会 in 仙台—この先へ続く、東北の「新たな挑戦」—』

2月11日(木・祝)13:00～ @仙台サンブラザホール、ホテル(2階・3階)

「新しい東北」官民連携推進協議会では、東日本大震災から5年を前に、これまでの復興支援の成果・課題を振り返りながら、この先の復興の在り方・課題を議論するパネルディスカッションや、復興の現場で「新たな挑戦」に取り組む90を超える団体のブース展示などを行う交流会を2月11日(木・祝)に、仙台サンブラザホールとホテルで大規模に開催いたします。ぜひ当イベントの告知へのご協力と、当日のご取材をご検討下さいますよう、お願い申し上げます。

■『新しい東北・交流会 in 仙台—この先へ続く、東北の「新たな挑戦」—』 概要・見どころ

仙台サンブラザホテル 3階 クリスタル

13:00-13:10 『オープニング』～ホール・ホテルの両方で開催する大規模交流会のオープニングセレモニー
(復興庁政務による挨拶、宮城県による挨拶を予定)

13:10-13:40 『先導的なビジネスの顕彰』～「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」より
岩手・宮城・福島の3県の被災地における企業等の事業活動の中から、「新しい東北」の創造に向けてモデルとなる被災地起業の先導的成功事例、創造的な取組を進める途上にあり、掲載を通じて後押しが図られる40の事例を選定し、事例集「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」として取りまとめました。
このうち、外部有識者による委員会での成功事例として評価された6事業者を顕彰し、その取組内容を紹介します。

13:40-15:10 『パネルディスカッション』～この先の「復興支援」とは～
(登壇者：藤沢烈氏(一般社団法人 RCF)、石塚直樹氏(みやぎ連携復興センター)、河崎保徳氏(ロート製薬(株))、小松真実氏(ミュージックセキュリティーズ(株))、笹野健氏(石巻市))
復興支援の最前線に立つ様々な立場の視点から、これまでの5年間における復興支援の成果・課題を振り返るとともに、「復興・創生期間」における復興支援の在り方・課題について議論します。

仙台サンブラザホテル 3階 宮城野

13:30-16:40 『移住者公開座談会』～被災地でつけたものとこれからのこと～
被災地支援をきっかけとして宮城県内に移住した方々をお呼びし、これからの展望を聴くとともに、来場者の方も含めて、今後の地域づくりに向けたヒントを探っていきます。
※ このほか、同会場では、片手に持って手軽に食べられる、復興庁宮城復興局おすすめの「ワンハンドフーズ」を紹介するコーナーを設置します。一部試食も可能です。

仙台サンブラザホール

13:10-16:45 『ブース出展』～「新しい東北」交流会 過去最大の90団体を越えるブース出展
被災地において「新たな挑戦」に取り組む90を超える団体による、それぞれの挑戦を紹介するブース出展です。
「産業・なりわい」、「コミュニティ・まちづくり・防災」の分野で復興に取り組む団体、これらを支援する自治体・支援団体など様々なブースが出展します。試食・体験ができるブースもあります。このほか、相談ブースを設けて、復興の現場での課題解決に向けたアドバイスも行っています。

※ このほか多数の企画を用意しております。※ 上記プログラムは2月2日時点の情報です。当日までに変更となる場合があります。

【場所】

仙台サンブラザホール、ホテル (宮城県仙台市宮城野区榴岡 5-11-1)

J R 仙台駅東口から徒歩 13 分 または J R 仙石線榴岡駅直結

【お問合先】「新しい東北」官民連携推進協議会事務局(みずほ総合研究所(株) 社会・公共アドバイザー部内)

TEL: 03-3591-8773 (平日)9:30-17:30 FAX: 03-3591-8777 MAIL: nt-info@mizuho-ri.co.jp

■『新しい東北・交流会 in 仙台』では、ほかにも多数の企画を用意しております

「組織活性化研修」取組発表 平成 27 年 9 月に被災地自治体職員を対象に島根県海士町で実施した「組織活性化研修」の成果を発表します。 《ホテル 2 階 青葉 1330-1440》	パネルディスカッション～文化芸術による復興創生へ 文化芸術を活用した復興支援の活動を振り返り、文化芸術が復興に果たす役割や地方創生について考えます。 《ホテル 2 階 青葉 1500-1650》
商品アドバイス 百貨店 OB 等の専門家の方が、バイヤーの視点から、商品開発・販路拡大に向けた具体的なアドバイスをを行います。 《ホール 1430-1530》	「復興支援インターン」活動報告 復興大学主催の「復興インターン」に参加していた学生による活動報告を行います。 《ホール 1620-1645》
プレゼンテーション 「新たな挑戦」に取り組む 24 団体が、自らの取組やその成果をプレゼンテーション形式で紹介します。 《ホール 1340-1630》	映像上映コーナー 地方公共団体、大学、金融機関、企業など、会員団体の様々な取組を映像で紹介します。 《ホール ホワイエ 1300-1745》
パネル展示 「新しい東北」先導モデル事業者や「新しい東北」復興ビジネスコンテスト 2015 受賞者などの取組を紹介します。 《ホテル 3 階 1300-1745》	懇親会 出展者と来場者が自由に懇談いただける場です。江戸時代から東松島市に伝わる「鹿妻鹿踊り」を特別上演します。 《ホテル 3 階 クリスタル 1700-1745》

(参考)『新しい東北』とは

震災復興の最終目標は「まちのにぎわい」を取り戻すことです。インフラや住宅等(ハード)の復旧が進みつつある中、「まちの賑わい」を取り戻すためには、「人々の活動(ソフト)」の復興が必要です。被災地では、人口減少や高齢化、産業の空洞化といった、日本全国の「地域」が抱える課題が特に顕著です。併せて、震災復興に取り組む地域に特有の課題もあります。復興庁では、各地域において、各々の課題を解決し、自律的で持続的な地域社会を目指す取組を「**新しい東北**」と呼んでいます。

(参考)『「新しい東北」官民連携推進協議会』とは

復興庁では「新しい東北」に向けた取組を進めていますが、被災地では、行政機関のみならず、幅広い担い手(企業、大学、NPO 等)においても、復興に向けた様々な取組が進められています。今後、これらの取組をより一層進め、東北の持続的な活力に結び付けていくためには、幅広い担い手が、互いの取組に関する情報を共有し、連携できる体制づくりが重要です。

被災地で事業展開されている多様な主体による取組について、情報の共有・交換を進めるため、経済界、大学、NPO 等の皆様に設立発起人となっていただき、『「新しい東北」官民連携推進協議会』を設立しました。会員数は 900 を超えるまでになりました。この協議会の活動により、様々な連携を後押しすることで、東北の持続的な活力に結び付けていきたいと考えています。

以上

取材要望シート

『新しい東北交流会in仙台ーこの先へ続く、「新たな挑戦」』当日のご取材をご予定の方は、本シートを2月8日(月)までにFAXにてご返送くださいませ。なお本イベントの事前告知にご協力頂ける媒体社様・番組様は、お手数をおかけいたしますが、下記連絡先までご連絡を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。

「新しい東北」官民連携推進協議会 事務局（みずほ総合研究所(株)内） 行

FAX : 03-3591-8777

『新しい東北交流会 in 仙台ーこの先へ続く、「新たな挑戦」』

2016 年 2 月 11 日 (木祝) 13:00～ 於:仙台サンプラザホール、ホテル(2 階、3 階)

☐ご出席 ☐ご欠席

貴社名 :

媒体名 :

部署名 : 役職:

ご芳名 : ご同行者: 名

ご取材のご要望:【撮影予定】☐あり☐ENG ☐デジタルビデオ ☐スチール) ☐なし

ご連絡先 : TEL FAX

E-mail :

ご掲載/O.A.のご予定:

その他、ご要望などご記入ください

【報道関係の方からのお問い合わせ先】

「新しい東北」官民連携推進協議会 事務局（みずほ総合研究所株式会社 社会・公共アドバイザー一部内）

Tel:03-3591-8773(平日 9:30～17:30)／Fax:03-3591-8777／Mail:nt-info@mizuho-ri.co.jp

平成27年度第3回

新しい東北に交流 in 仙台

— この先へ続く、

— 東北の「新たな挑戦」 —

東日本大震災からまもなく5年。復興の歩みは、これからも続いています。
今回の交流会では、これまでに東北の各地で生まれた「新たな挑戦」を紹介し、
今後の復興の在り方を皆様と一緒に考えます。

平成28年2月11日（木・祝） 13:00-17:45（12:30開場）

仙台サンプラザホール、ホテル（2階・3階）

[宮城県仙台市宮城野区榴岡5-11-1]

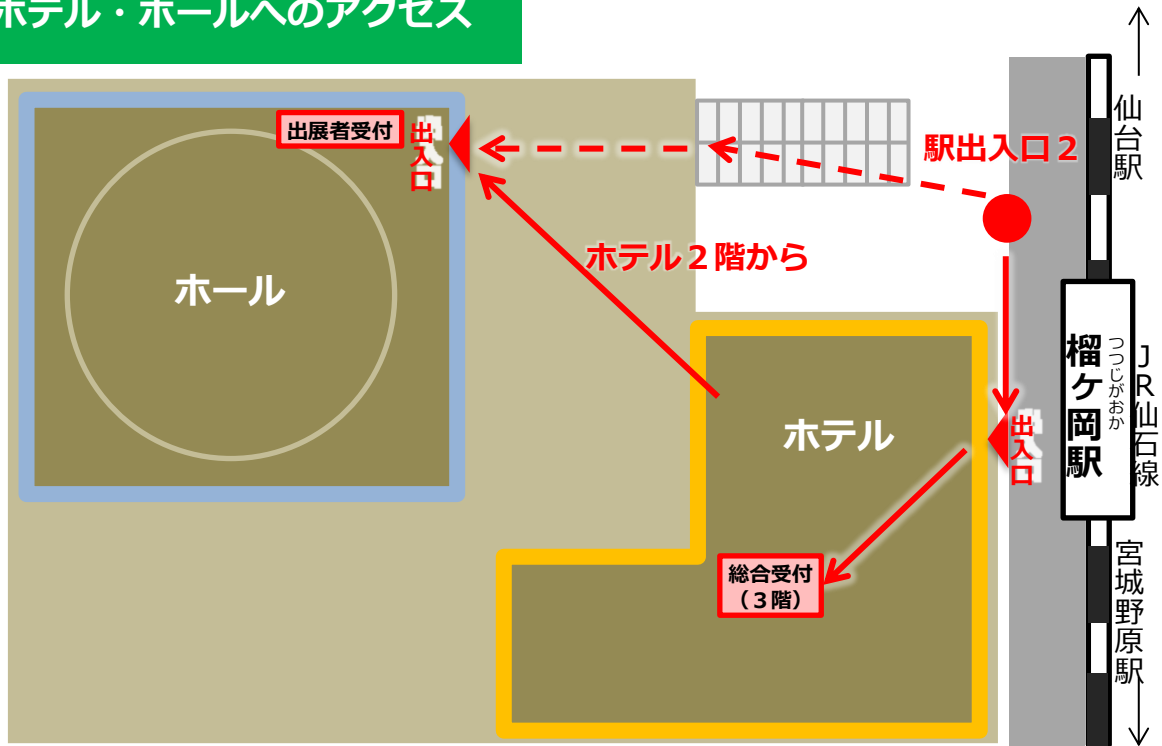
会場案内

【会場のご注意事項・ご案内】

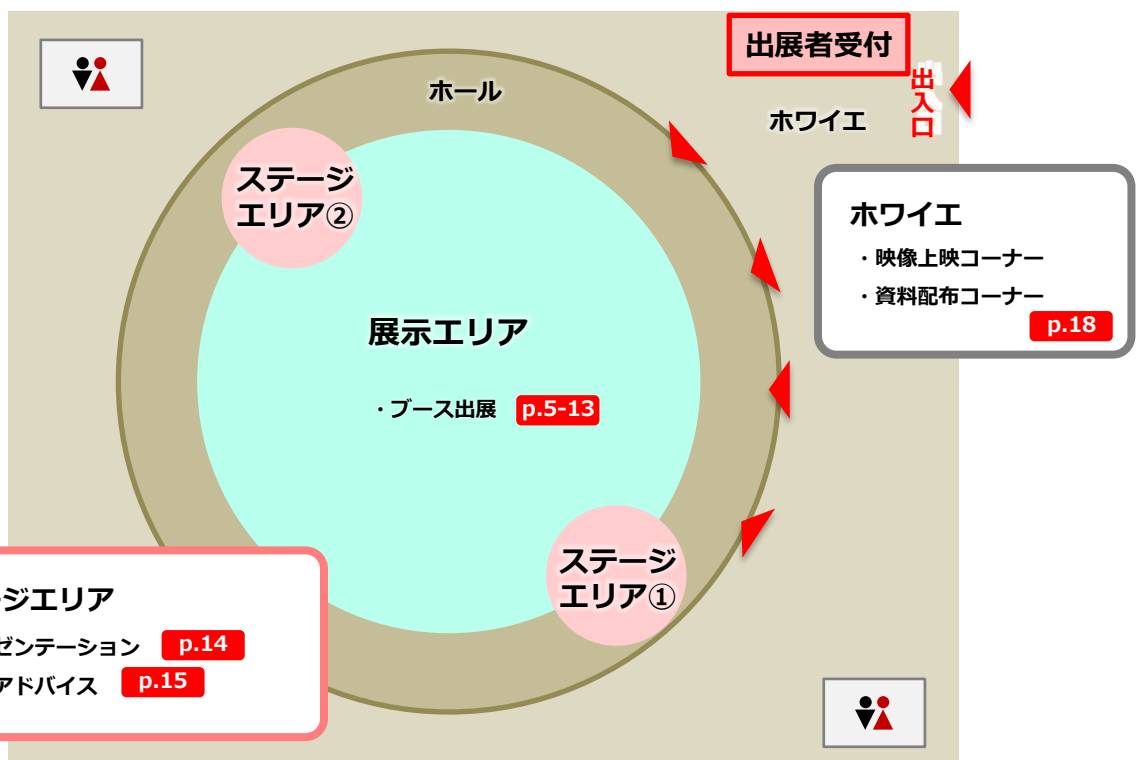
- ※ ご来場時は**ホテル3階の「総合受付」**にお越しください。
- ※ **アンケート**をお配りしています。ご協力をお願いします。
- ※ ホテル3階のクロークをご利用いただけます。
- ※ 貴重品管理は各自をお願いします。
- ※ ホテル内、ホール内への試食品以外の飲食物の持ち込みは禁止です。

- ※ ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ※ 喫煙スペースは屋外（ホール外）とホテル2Fにございます。
- ※ 会場内を撮影した映像・写真は公開される可能性があります。
- ※ 本会合は**マスコミオープン**です。

ホテル・ホールへのアクセス



ホール

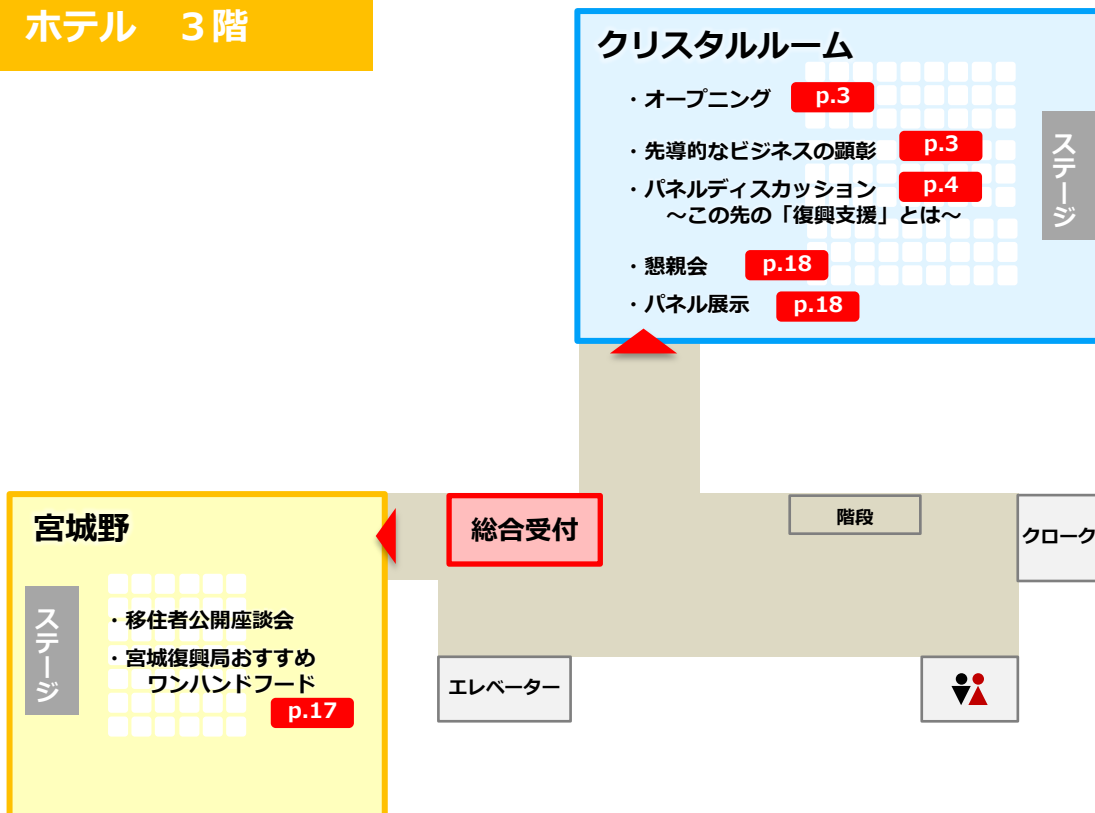


タイムテーブル

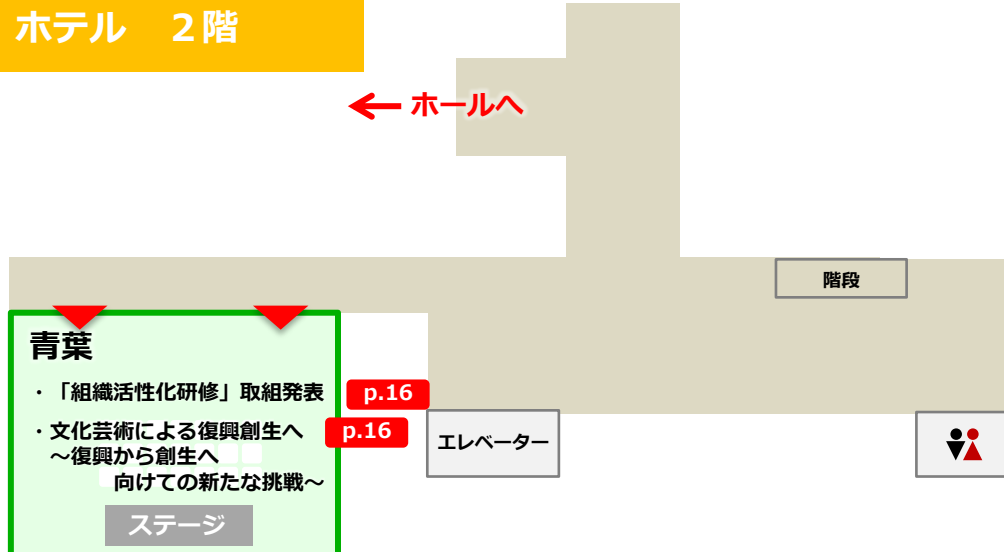
※企画内容・時間は予告なく変更になる可能性があります。

	ホテル 3 階		ホテル 2 階	ホール	
	クリスタル	宮城野	青葉	展示エリア	ステージエリア
13:00	13:00-13:10 オープニング				
14:00	13:10-13:40 先導的なビジネスの顕彰	13:30-16:40	13:30-14:40 「組織活性化研修」取組発表	13:10-16:45	13:40-16:40 プレゼンテーション
15:00	13:40-15:10 パネルディスカッション ～この先の「復興支援」とは～	移住者公開座談会／ 宮城復興局おすすめ ワンハンドフード	15:00-16:50 文化芸術による復興創生へ ～復興から創生へ向けての新たな挑戦～	ブース展示 相談ブース	14:30-15:30 商品アドバイス
16:00					
17:00	17:00-17:45 懇親会				
18:00					

ホテル 3 階



ホテル 2 階



先導的なビジネスの顕彰

「私たちが創る－産業復興創造 東北の経営者たち－」発表イベント

被災地で先導的なビジネスを行っている事業者（復興庁「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」の掲載事業者）を顕彰し、取組内容をご紹介します。

13:10-13:40

登壇者

岩手モリヤ株式会社（岩手県久慈市）

代表取締役社長 森奥 信孝氏

「人づくりが、良い商品づくりへ」



震災後に使用電力の削減を徹底的に行い、電気使用量をほぼ半減、電気料の削減分を賞与として社員に還元した。また、独自の育児支援制度を整備しているほか、ITの導入等による業務の効率化や、若手人材の育成制度の運用を通じ、高級婦人服の縫製に求められる技術品質の向上を図るとともに、女性が働き続けやすい職場環境づくりを進めている。

株式会社長根商店（岩手県洋野町）

代表取締役社長 長根 繁男氏

「高付加価値商品の開発で安定経営へ」



天然キノコの風評被害に対し、独自開発した屋内栽培による高付加価値キノコ『三陸あわび茸』を商品化し、新たな販路を構築。また、地場産品を活用した加工品の生産等により、季節間における繁閑の平準化と工場の稼働率向上を達成するとともに、地域経済の活性化・雇用機会の拡大に寄与している。

株式会社石渡商店（宮城県気仙沼市）

代表取締役専務 石渡 久師氏

「業務改善と新分野への挑戦で成長」



主力のふかひれの加工技術を活用し、震災後はふかひれ以外の地元産品を用いた新商品開発を積極化、「気仙沼産完熟牡蠣のオイスターソース」はヒット商品となった。また、多くの水産加工業者の課題となっている人手不足を、ITシステムの活用や「トヨタ生産方式」の導入による業務の効率化で克服。震災前を越える利益を達成している。

公益社団法人 sweet treat 311（宮城県石巻市）

代表理事 立花 貴氏

「教育複合体験施設が交流人口を拡大」



廃校を宿泊可能な複合型体験施設(MORIUMIUS)に改修し、小中学生を対象に、地域の豊かな自然との触れ合いや地域住民を交えた様々な体験を通じて学び場を創出。国内各地はもとより海外からも多くの子供達が訪れており、人口減少が顕著な石巻市雄勝地区における雇用機会の創出および交流人口の拡大を通じた地域の活性化に取り組んでいる。

会津中央乳業株式会社（福島県会津坂下町）

代表取締役社長 二瓶 孝也氏

「新商品をテコに福島酪農を再生へ」



会津の原乳にこだわり、低温殺菌により牛乳本来のコクと甘味を持ったワンランク上の製品を生産、首都圏の百貨店や高級スーパーでも支持を集めていた。牛乳ははまだ風評被害の影響を受け、他社に奪われた売場の棚を取り戻すのは容易ではない中で、新たにチーズ製造事業を立ち上げ、2種類のチーズの販売を開始、新たな販路の構築を進めている。

有限会社キャニオンワークス（福島県いわき市）

代表取締役社長 半谷 正彦氏

「県外避難を乗り越え福島で復活」



震災前は浪江町で事業を営んでいたが、原発事故で町外避難を余儀なくされる。群馬県内での仮操業を経て、いわき市で本格的に事業を再開。自動車用シート等で蓄積した高度な縫製技術に加え、小ロット多品目生産への対応や市場ニーズの変化を捉えた積極的な営業活動により受注が増加。震災前を上回る従業員数を達成し復活を遂げている。

「私たちが創る－産業復興創造 東北の経営者たち－」とは

※こちらの事例集は交流会会場で配布しています。

岩手・宮城・福島県の3県の被災地域における企業等の事業活動の中から、

- ①「新しい東北」の創造に向けてモデルとなる被災地企業の先導的成功事例
 - ② 創造的な取組を進める途上にあり、掲載により取組の後押しとなる挑戦事例
- を選定し、各社の取組内容やその成果について、経営者のビジョンや具体的な課題解決手法に触れつつ取りまとめたものです。



復興支援に携わる様々な立場の視点から、これまでの5年間における復興支援の成果・課題を振り返るとともに、「復興・創生期間」における復興支援の在り方・課題について熱くご議論いただきます。間もなく震災から5年、復興支援のニーズも変化しつつある中、これからの復興への関わり方へのヒントが得られるはずです。企業の方、NPOの方、復興支援団体の方、自治体職員の皆様など、どなたでもご参加ください。

登壇者



石塚 直樹 氏

一般社団法人みやぎ連携復興センター 事業部長

平成20年に中越防災安全推進機構に入社。新潟県中越地震の被災地で復興・中山間地域コーディネーターの育成事業や復興プロセス研究などに取り組む。東日本大震災後は平成24年からみやぎ連携復興センターに出向。地域復興に取り組むコーディネーターの育成事業の立ち上げ等に従事。



河崎 保徳 氏

ロート製薬株式会社 広報CSV推進部 部長

阪神・淡路大震災を大阪で、9.11アメリカ同時多発テロを駐在先のNYで経験。東日本大震災後は平成23年3月から震災復興支援室長として3年間を被災地で過ごす。震災遺児の大学・専門学校進学を25年にわたり支援する「みちのく未来基金」創設。約420名の震災遺児の進学を支援中。平成26年6月から現職。



小松 真実 氏

ミュージックセキュリティーズ株式会社 代表取締役

平成12年12月にミュージックセキュリティーズ合資会社を創業。翌年の有限会社化を経て平成14年5月に株式会社化。マイクロ投資プラットフォーム『セキュリティ』を運営。東日本大震災の復興に向けた「セキュリティ被災地応援ファンド」では38社40本のファンドを組成、延べ約2万9千人から約11億円を調達した。



笹野 健 氏

宮城県石巻市 副市長

平成7年に旧自治省へ入省。その後、新潟県勤務時に新潟県中越地震の復興に、消防庁勤務時に東日本大震災発災直後の緊急消防援助隊宮城県内派遣部隊の後方支援に従事。平成23年7月に石巻市復興担当審議監。平成24年2月より現職。全国・全世界からのご支援を受け、市民一丸となって復興にまい進中。

モデレーター



藤沢 烈 氏

一般社団法人RCF 代表理事

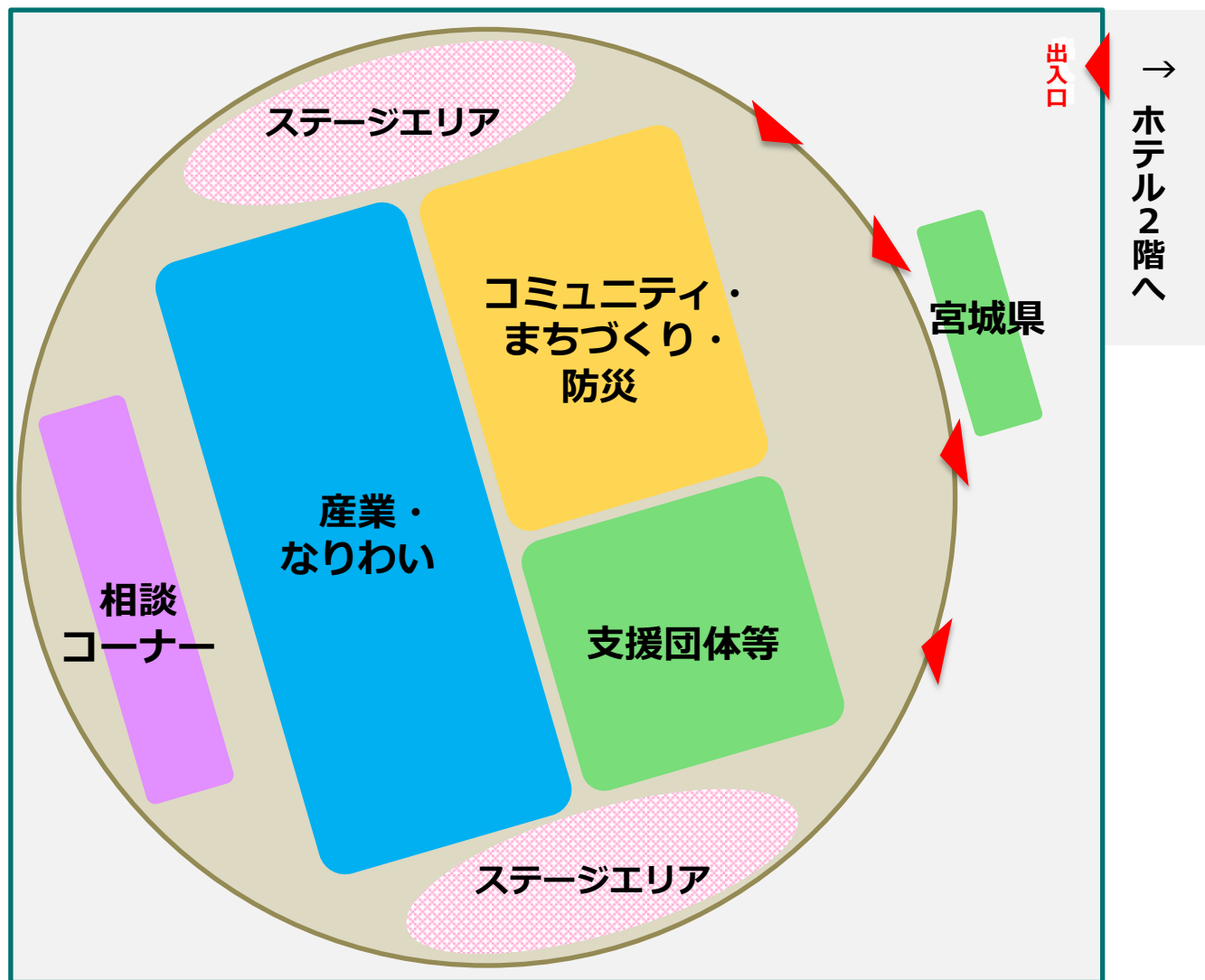
一橋大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て独立。NPO・社会事業等に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後は平成23年4月にRCF復興支援チーム(現RCF)を設立し、復興事業の立案・関係者調整を担う「復興・社会事業コーディネーター」として、10社以上の企業、30以上の被災県/市町村・省庁と復興事業を推進。文部科学省教育復興支援員も兼務。

「ホール 展示エリア」

ブース出展

13:10-16:45

復興の現場で「新たな挑戦」に取り組む90を超える団体が一堂に会し、取組の内容をご紹介いただきます。それぞれのブースでは、取組内容を紹介するパネルや動画、商品等の展示を行うほか、一部ブースでは試食体験も実施していただきます。



※ブースレイアウトは近日中に公表します。※

NOTE

「新しい東北」先導モデル事業とは

復興事業を行うNPOや民間企業などに対して、住民参加の検討会開催や、専門家の招へいなどに要する費用を復興庁が支援する事業です。平成25年度から平成27年度までで延べ216事業を支援しています。

「新しい東北」復興ビジネスコンテストとは

被災地の産業復興や地域振興に向けた機運醸成を図る目的で、ビジネス面で優れたアイデアを表彰するコンテストを「新しい東北」官民連携推進協議会が開催しています。今年度は、「ビジネス部門」と、個別テーマに対するアイデアを募集する「アイデア部門」の2つの部門を設けました。ビジネス部門では138件の応募があり、17件が受賞しました。

「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」とは

詳細は、3pをご覧ください。

◆ 出展団体一覧（50音順）

※ ★印：平成27年度「新しい東北」先導モデル事業 実施団体
※ ●印：「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2015受賞団体
※ ◆印：復興庁「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」掲載事業者

産業・なりわい

- ◆ 会川鉄工株式会社
- ★ 会津土建株式会社（福島県CLT推進協議会）
- ★ 会津若松酒造協同組合
 - ・ 株式会社あきた六次会
- アンデックス株式会社
- ★ 石巻市水産復興会議
- ◆ 株式会社石渡商店
- ★ 岩沼復興アグリツーリズム協議会（インフォコム株式会社 岩沼みんなの家 by infocom）
- ★ NPO法人浦戸アイランド倶楽部
- ★ 一般財団法人エンジニアリング協会
 - ・ 合同会社大蔵わさび
- ★ 奥松島・金華山 石巻圏周遊観光協議会
- ★ 女川ファン推進協議会
 - ・ 株式会社おのざき
- ★ 株式会社釜石プラットフォーム
- ★ 川内村エネルギー自立プロジェクト協議会
- ★ 川俣町山木屋農業復興会議
- ★ 気仙沼の魚を学校給食に普及させる会
- ★ 郡山ブランド野菜協議会
 - ・ 小島工業株式会社
- 一般社団法人コミュニティスペースうみねこ
 - ・ 合資会社佐藤清治製麺
- ◆ 公益社団法人 sweet treat 311
- ★ 水素を活用したCO₂フリーの循環型地域社会を考える会
- ★ 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社
 - ・ 有限会社 玉谷製麺所
- ★ 有限責任事業組合地域創生ビジョン研究所
 - ・ NPO法人テラ・ルネッサンス（大槌復興刺し子プロジェクト）
- ★ 東西しらかわ農業協同組合
- ★ 東北海外展開加速化協議会
- ★ 東北花き園芸復興協議会
- ★ 東北食品研究開発プラットフォーム
- ★ 東北パッケージ革新プロジェクト推進委員会
- ★ 東北フードツーリズム開発推進協議会
- ★ 株式会社トラベリエンス
- ◆ 株式会社長根商店
- ★ ナタネによる東北復興プロジェクト会議
 - ・ 株式会社ニーズ
- ★ 一般社団法人日本葡萄酒革進協会
- ★ 株式会社博報堂
- ◆ 一般社団法人はまのね
- ★ 一般社団法人東松島みらいとし機構
 - ・ 被災地企業販売力強化実行委員会
- ★ 広野サステナブルコミュニティ推進協議会（及びいわき おてんとSUN企業組合）
- ★ ふるさと豊岡復興協議会，NPO美しい街住まい倶楽部
 - ・ 株式会社マツバヤ
- ◆ マルヤ水産株式会社
- ★ 宮城県産地魚市場ブランドコンソーシアム
 - 株式会社有紀
 - 株式会社ライフブリッジ
 - ・ 株式会社WATALIS
- ★ 一般社団法人和RING-PROJECT

コミュニティ・まちづくり・防災

- ・ 「生きる力」市民運動化プロジェクト
- ★ 石巻市地域包括ケア推進協議会
- ★ 岩手県大槌町
- ★ エコEVカーシェアリング事業検討委員会
- ★ 大槌コミュニティ再生会議
- ★ 釜石リージョナルコーディネーター協議会
- ★ NPO法人吉里吉里国
- ★ 一般社団法人GEN・J（ジェンダー・イコリティ・ネットワーク・ジャパン）
- ★ NPO法人スマイルスタイル
- ★ 一般社団法人SAVE TAKATA
- ★ NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター
- ★ 田村地域デザインセンター
- ★ 公益社団法人日本栄養士会
- ★ 一般社団法人日本公園緑地協会
 - ・ NPO法人日本冒険遊び場づくり協会
- ★ パナソニックシステムネットワークス株式会社 システムソリューションズジャパンカンパニー 東北社
 - ・ 株式会社日立ソリューションズ東日本
 - ・ 変幻自在合同会社
- 一般社団法人南三陸町観光協会
- ★ NPO法人りくカフェ
- ★ 若者支援全国協同連絡会議

支援団体等

- ・ 国立大学法人岩手大学
- ★ NPO法人wiz
- ・ 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
- ★ 企業による「東北支援スモールスタートモデル」研究会
 - ・ 東北大学大学院農学研究科 東北復興農学センター
 - ・ 独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）
 - ・ 株式会社日本政策投資銀行
- ★ 日本百貨店協会
- ★ 一般社団法人東の食の会
 - ・ プライスウォーターハウスクーパース株式会社
 - ・ 株式会社マイナビ
 - ・ 株式会社みずほ銀行
 - ・ 宮城県 経済商工観光部
 - ・ 宮城県 震災復興・企画部
 - ・ 宮城県 農林水産部 食産業振興課
 - ・ 宮城県 農林水産部 水産業振興課
 - ・ 宮城県 農林水産部 全国和牛能力共進会推進室
 - ・ 宮城県多賀城高等学校
 - ・ ロート製薬株式会社

相談コーナー

- ★ 株式会社オリコム
 - ・ 株式会社ジェイティービー
 - ・ 株式会社仙台銀行
 - ・ 株式会社日本政策金融公庫
- ★ 日本百貨店協会（東北支援アドバイsteam）
- ★ 福島復興暮らしと仕事安定化協議会（スターリングパートナーズ合同会社、奥地建産株式会社、山本隆久税理士事務所）
- ★ 一般社団法人Bridge for Fukushima
 - ・ 楽天株式会社
- ★ リアス食べ尽しの会
 - ・ 株式会社ローソン

産業・なりわい

◆1 会川鉄工株式会社

大・中・小型風力タワー製作及び災害・廃炉用ロボット研究開発

弊社は創業71年一般産業及び火力・原子力発電用大型製缶の製作施工を行っています。近年では再生可能エネルギーの大・中・小型風力発電用タワー製作に力を入れております。また災害廃炉対応ロボット「がんばっぺ号」の研究開発も行っています。

★3 会津若松酒造協同組合

二十歳になったら会津清酒で乾杯！

会津若松酒造協同組合では、日本酒の潜在顧客として期待される若者が実際に美味しい会津清酒を飲む「文化」を創造することにより、会津の伝統品である会津清酒の普及・継承及び会津地域の活性化を図るための「親子の語酒」事業を実施しています。二十歳になったら会津清酒で乾杯！

●5 アンデックス株式会社

「水産×IT」松島湾海水温の共有とデータ蓄積

震災以降不安定な松島湾近海の漁業の安定化を目指して、漁場の水温などの「漁師が知りたいデータ」をリアルタイムで手軽に確認できる仕組みを構築。松島湾近海を漁場とする全漁師を対象にサービスを提供。

◆7 株式会社石渡商店

株式会社石渡商店

海の恵みを大切に食文化を創造する。地域の素材を最大限活用し、売り手よし、買い手よし、作り手よしの商品をより多くのお客様にご提供できるようにこれからも日々研究、開発していく所存です。

★9 NPO法人浦戸アイランド倶楽部

浦戸 サスティナビリティ プロジェクト

加速する浦戸諸島において交流人口の増加・農漁業の担い手の育成支援を図ることを目的として島の農業や漁業、里山を活用し自然環境に関心のある方々を対象にした「農・漁業体験」や「グリーンツーリズム」等の実施を通して島の魅力を発信する

11 合同会社大蔵わさび

大蔵わさび

大蔵村は山形県のほぼ中央に位置し霊峰月山の麓にあります。開湯1200年の肘折温泉は朝市で賑っております。大蔵わさびは月山の万年雪の恵みを受けた湧水のための無農薬栽培しております。添加物を使用せず丁寧に加工したわさび漬4種をぜひご試食ください。

★13 女川ファン推進協議会

女川ファン100万人プロジェクト

新しい街へ生まれ変わる女川町の魅力を発信し、女川の街を好きになってくれるファンを増やすとともに、また女川に来たくなる楽しい理由づくりをICTとアナログを活用した仕組みを行っています。

★2 会津土建株式会社（福島県CLT推進協議会）

会津土建株式会社（福島県CLT推進協議会）

国内に充分蓄積のあるスギ材を利用した新しい建築構造材CLT（Cross Laminated Timber）に関して、CLT材料に関しては、国主導で構造検討や防火検討など材料としての特性を確認している実証実験は多数存在するが、本取組のような環境データ評価や地元ゼネコンが主体となった活動は少ない。被災地域ゼネコン主導で実施可能な体制を構築することによる復興機関連業。

4 株式会社あきた六次会

比内地鶏ハム 『びるない』

秋田の名産「比内地鶏」を岩手県一関市の職人「ドイツ食肉加工マイスター」が加工。秋田と岩手のコラボレーションにより生まれた極上の鶏ハムです！

★6 石巻市水産復興会議

Ishinomaki Seafood 新たな販路を求めて

震災によって失われた販路の回復、新しい販路の開拓に向け石巻の水産加工事業者が共同で行った取り組み、水産加工場が抱える共通課題解決のために行った取り組みを紹介します。

★8 岩沼復興アグリツーリズム協議会（インフォコム株式会社 岩沼みんなの家 by infocom）

「千年希望の丘」岩沼復興アグリツーリズム

社会基盤であり復興のシンボルでもある「千年希望の丘」の維持・管理を目的に、被災農地での農業体験や農産物、岩沼みんなの家や地域宿泊施設等の地域資源を活用し、全国に情報発信し参加・交流・リピートを促進する持続的な復興ツーリズムを実施しています。

★10 一般財団法人エンジニアリング協会

地域エネルギーを活用した都市型バイオ・フードクラスターの構築

都市型バイオ・フードクラスターは、地域エネルギーの有効活用と「農業」「食品・医薬品加工」「サービス産業」の6次産業化へ向けた一連のバリューチェーン向上に向けて、大学の研究開発機能を有効活用するビジネスモデルを構築するものです。

★12 奥松島・金華山 石巻圏周遊観光協議会

奥松島・金華山 石巻圏周遊観光協議会

「アクティブ・ラーニング」の受け入れ（課題解決）の地として、石巻圏においてその体制づくりに取組み、学校にメッセージ性の高い誘客を推進。「学び」をテーマに仙台圏域からのMICE誘客にも効果を波及させ、交流を通じて地域経済に貢献する。

14 株式会社おのざき

株式会社おのざき

創業90年の海産物専門店、いわき市内に鮮魚専門店5店舗、回転寿司1店舗を展開。地元密着型の海産物専門店。震災後は地元水産加工会社と共にぶくし海援隊を結成し、水産物の払拭の為、首都圏のイベントにも参加している。

★15 株式会社釜石プラットフォーム

里海プロジェクト

生産者・消費者・飲食店が三位一体となりブランディングを進めている「かまいし桜牡蠣」の取組事例。

★17 川俣町山木屋農業復興会議

被災地における新しく強い農業の創造

風評に負けない強い農業の復興を目指し、土壌を用いない「ポリエステル培地」を活用した花卉・野菜等の栽培の紹介を中心に、これまでの川俣町山木屋農業復興会議での取り組みをご紹介します。

★19 郡山ブランド野菜協議会

1年に1度、数百の中から、たった1つ選ばれる珠玉の野菜

長年郡山の地で農業を営み、年間数百種類を育て、野菜の“目利き”である生産者達が、新たな郡山の伝統を創り出すべく「味わい」「栄養価」「個性」「郡山の土地との相性」を見極め、2003年から1年に1品ずつ生み出す「郡山ブランド野菜」をご紹介します。

●21 一般社団法人コミュニティスペースうみねこ

女川生まれの「唐辛子」、「いちじくの甘煮」、「いちじく茶」

女川生まれの無農薬の唐辛子。豊かな香り、強い辛さが特徴です。津波で塩害のあった土地を4年をかけて地元のお父さんが耕し丁寧に摘みとりました。味にこだわりたい方、特別な料理に是非。いちじくの甘煮、いちじく茶も大好評、試食コーナーあります。

◆23 公益社団法人 sweet treat 311

モリウミナス 「～森と、海と、明日へ～」

石巻市雄勝町にある築93年の廃校を2年半でのべ5千人手作りで改修、こどもたちの複合体験施設モリウミナスとして蘇りました。地域と都市部、日本と海外のこどもが共同生活で多様性を学び一次産業や自然体験を通じて地域と人に触れ、持続可能社会を学びます。

★25 株式会社ダイヤモンド・ビッグ社

東北のインバウンドを地酒と温泉で盛り上げる会

東北の豊富な資源である「日本酒酒蔵と温泉」を組み合わせた訪日個人旅行客向け着地型旅行商品の造成を支援するとともに、地域発の着地型旅行商品を旅行者に直接販売をする機会を提供する。

★27 有限責任事業組合地域創生ビジョン研究所

希少繭「小石丸(巨理)」の再生と「くわ布林」の6次産業化

東北の中山間地の地域資源を最大限に活用。希少繭種「小石丸(巨理)」の再生に成功。競争力のある高付加価値「小石丸(巨理)」生糸の生産と、健康増進食品「くわ布林」の6次産業化を目指す先導的取組。

★29 東西しらかわ農業協同組合

植物工場「やさいの家」

JA発の人工光型植物工場で周年で野菜の生産を行い、食の安定供給を目指しています。

★16 川内村エネルギー自立プロジェクト協議会

川内村エネルギー自立プロジェクト

福島県が再生可能エネルギー自立県を掲げる中、川内村がその先駆けとして、潜在地域資源の「小水力」等を柱に、光熱費負担が少なく、継続的に住みやすい生活環境を提供する村づくりを目的とする。第一歩として、「いわなの郷」の電力を100%自給自足するための「自給モデル実験」、村内水系の中小水力発電設置候補地の賦存量調査と絞り込み、及びエネルギー自立村構築への具体化に向けた検討・勉強会とロードマップ作り等を実施している。

★18 気仙沼の魚を学校給食に普及させる会

気仙沼の魚を学校給食に普及させる会

当会では、昨今深刻化している「子供の魚食離れ」や地元水産業が震災の影響から復旧・復興を果たし「地域振興」を図っていかねばならないという現状を鑑み、気仙沼の魚を使った給食メニューの提供による魚食普及ならびに地域振興活動を行っております。

20 小島工業株式会社

軽くて強い！発想の転換で生まれたEPSホームガード！

本業の発砲スチロールの素材特性を活かし、「軽くて強い」製品を開発。コンクリートに代わり、持ち運びが簡単で、施工時間も短縮可能。住建材用途として、オリジナルの門扉作成が簡単に出来ます。アイディア次第で様々な用途に対応できるのでお気軽にご相談下さい。

22 合資会社佐藤清治製麺

佐藤清治製麺

創業380年の白石温麺製造元がさくら温麺の提案をさせていただきます。さくら温麺の『紅』と白石温麺の『白』を組み合わせた『紅白温麺』を食と販促の両面からアピールしたい。香料等一切使わず県産小麦50%と石巻産の塩を使うなどして県産を訴求していきたい。

★24 水素を活用したCO₂フリーの循環型地域社会を考える会

水素を活用したCO₂フリーの循環型地域社会創り

CO₂フリーの循環型地域社会創造を目指し相馬市で水素地産地消型事業を検討している。本ブースでは、その取組内容について紹介する。

26 有限会社 玉谷製麺所

出羽の国より 食卓にサクラの花を咲かせます～サクラパスタ

東北山形から新たな麺の挑戦。日本の技術が創る和のパスタ 冬の雪から、春の桜へ 和の心を世界の食卓に届けます。

28 NPO法人テラ・ルネッサンス（大槌復興刺し子プロジェクト）

大槌復興刺し子プロジェクト

大槌町で、震災直後の2011年5月に避難所から始まったプロジェクト。本震災により被災された主に中高年女性を中心に、東北にゆかりある「刺し子」の商品制作等を通じ、コミュニティの形成や針仕事による心理的負担の軽減、生きがいを創出している。

★30 東北海外展開加速化協議会

東北発！海外展開加速化プロジェクト

被災3県を中心とした東北の農水産品等の海外展開を加速するため、輸出体制整備と決済機能の強化を行う。また、レシピ集等で東北食材への理解と興味を高めながら、「世界にも通用する究極のお土産」と連携しつつ、EU・アジア圏で東北食材の販売実績を作る。

★31 東北花き園芸復興協議会

東北花き園芸復興協議会

東北花き園芸復興協議会は平成26年度から福島県、宮城県、岩手県の3県の「被災地花き」復興支援を行うべくイベントの開催や各県の花きをPRするためのウェブサイト制作、花きに対する技術的支援等様々な取組を行っています。

★33 東北パッケージ革新プロジェクト推進委員会

東北パッケージ革新プロジェクト推進委員会

東北の農水産加工商品を包装・容器の革新によって市場創出の機会を発見する。東北の生産・加工事業者と包装・容器メーカーとの共創プロジェクトを通じて新たな「消費体験」を実現する新しい商品を開発中。

★35 株式会社トラベリエンス

訪日外国人送客メディア「プラネタイズ」

映像で見る日本旅行ガイドブックです。映像や旅行者の口コミをもとに、定番だけではなく観光スポットを紹介し、現地の観光ガイドのオリジナルツアーへも送客します。

★37 ナタネによる東北復興プロジェクト会議

ナタネによる東北復興プロジェクト

塩害に強い作物であるナタネの植栽により観光振興、養蜂のための蜜源創出、養蜂家の育成、蜂産品（はちみつ・ローヤルゼリーをもとにした）の製品開発による6次産業化を行い、ポリネーション用のミツバチの増群を行い、花粉媒介を利用する野菜栽培の環境を創出する総合的な取組です。

★39 一般社団法人日本葡萄酒革進協会

福島における高品質醸造用葡萄の栽培

質の高い醸造用葡萄の栽培とワイン造りを福島県双葉郡を中心とする地域の新たな地域文化として創造し、持続性がある自立発展型の6次産業を育てることを目指し、醸造用葡萄の試験栽培を開始します。2020年のワイン初出荷を目指します。

◆41 一般社団法人はまのね

蛤浜プロジェクト ～限界集落における魅力ある里海づくり～

石巻市杜鹿半島蛤浜は震災の津波により2世帯人口5人まで減少しました。地域の魅力発信と持続可能な暮らしをつくるため、café はまぐり堂をオープンしました。今後、狩猟や漁業、林業などの一次産業から家具、革製品、加工品などの製造、販売、自然体験などを行い魅力ある里海づくりを目指します。

43 被災地企業販売力強化実行委員会

販売力強化プロジェクト

被災地の食品加工業が下請依存から脱却するために、BtoC事業に挑戦しながら、消費者ニーズを十分に反映した新商品・高付加価値商品の開発を目指すとともに、企業間連携による高収益なビジネスモデルを確立する取組を実施。

★45 ふるさと豊間復興協議会、NPO美しい街住まい倶楽部

浜のかーちゃんの味；さんまのポーポー、佃煮

津波からの復興に向け、浜のかーちゃん達は家庭で味わっていたさんま料理の復活と特産品づくりに取り組みました。とってもおいしいね、と多くの人にいらってもらうのが嬉しい。多くの人に召しあがってもらえたらと思います。

★32 東北食品研究開発プラットフォーム

地域食品産業界と大学の連携による革新的商品創出先導モデル

産学連携を活かした、地元食品産業による主体的かつ継続的な先導的商品開発モデルを作るため、地元食品製造事業者を事例とし、産学連携により知財・マーケティング戦略に基づく商品開発の一気通貫の仕組み化とノウハウの蓄積を行う。

★34 東北フードツーリズム開発推進協議会

三陸の食文化と観光

今日、観光において「食」の役割は極めて重要です。今年度、当協議会では、大阪・神戸でのセミナーやフォーラムなどのプロモーション活動を行ってきました。その結果、三陸の食は、関西においても非常に魅力的で、関心が高いものであることがわかりました。

◆36 株式会社社長根商店

自然とともに 株式会社 株式会社社長根商店

「自然と共に」を合い言葉に弊社では、「自然と共に生きていきたい」と考えております。山が元気になる→川が元気になる→海が元気になる を基本に資源豊富な自然環境に近づくる努力をしております。また現在商品の委託製造にも力を入れており小ロットでのオリジナル商品開発のお手伝いをさせていただきます。

38 株式会社ニーズ

浪江町帰還に向けた取り組みと無水トイレ寄贈活動

震災後から継続中の「無水トイレ寄贈活動」と来春、一部避難解除になる浪江町帰還促進に向けた取り組みを紹介します。

★40 株式会社博報堂

「山さ、ございん」プロジェクト事務局

森林国際認証FSCを取得した南三陸杉。その魅力を広く発信し、活用を進めるため、「山さ、ございん」（宮城県の言葉で「山へいらっしゃい」の意）プロジェクトを立ち上げました。伝統と革新の良材、南三陸杉に優れたデザインという付加価値をつけた家具の展示や、森林体験ツアーの展示などを予定しています。

★42 一般社団法人東松島みらいとし機構

東松島ステッチガールズ

×××東松島の新産業、楽しく広げる刺繍の輪×××

デンマークの伝統的なクロスステッチ刺繍で子育て世代の女性のための新しい産業と生き甲斐を創出していこうとする取組みです。現在、東松島市や石巻市在住の女性66名で楽しく活動しています。

★44 広野サステナブルコミュニティ推進協議会（及びいわきおてんとSUN企業組合）

双葉八町村に春を呼ぶ！ 広野わいわいプロジェクト

町民の帰還が半数にとどまる広野町において、パークフェスや植樹を通じた交流、綿・果樹の6次化などに着手し、広野町に賑わいと仕事（なりわい）を創出し、地域主体の形成、町民帰還の促進とともに、双葉八町村復興の加速を目指します。

46 株式会社マツバヤ

「親父の小言」

「親父の小言」は、昭和初期に福島浪江町の大聖寺曉仙和尚が、江戸時代にあった人生訓をまとも伝えたのが始まりです。昭和30年代にマツバヤが額装に入れ販売したところ多くの人の心に響き全国に広がりました。そして今復興のシンボルとして再復活しました。

◆47 マルヤ水産株式会社

地元の食材缶詰 “CANNED”プロジェクト

日本で数少ないカニ缶詰の製造元であるマルヤ水産が、地元の食材を使用した“CANNED”プロジェクトとして宮城県産ギンザケの醤油煮缶詰を開発しました。統一デザインの下、缶詰化する技術を生かし素材の提供者と協力、国内外に販売する商品を開発していきます。

●49 株式会社有紀

電気の要らない自動ドア『オートドアZero』

電気供給することなく、ドアの前の踏み台に体重をかけるとテコの原理で滑車that下がり開閉する自動ドア『オートドアゼロ』電力供給に依存しない環境対応商品のため、エネルギー環境に配慮し、CO2排出量の削減、CSRについても関心が高く理解されている。

51 株式会社WATALIS

中古着物地によるリメイク雑貨製造販売事業～日本の美しさとの出逢いを創り、幸せを世界につなぐ～

筆筈に眠る古い着物地をリメイクし、再び世に送り出す「アップサイクル」に取り組んでいます。女性達が着物地の色や柄を活かしながら、一つひとつ丁寧に手作りし、長い歴史の中で培われてきた日本の意匠の美しさに新たな命を吹き込んでいます。

★48 宮城県産地魚市場ブランドコンソーシアム

宮城県産地魚市場ブランディングプロジェクト

「水産宮城」を復活させるためには、沿岸部の基幹産業である水産業、そしてその中心にある産地魚市場に活気が戻ることが不可欠です。本ブースでは、魚市場の躍動感、そこで働く人たちの想い、水揚げされる水産物の数々、それらを映像と言葉に込め発信します。

●50 株式会社ライフブリッジ

インバウンド対応接客英会話

カタカナで簡単に!ネイティブ発音で接客英会話を行えるプログラムです。『旅館の仲居さんでも出来る』外国人対応をモットーに、外国人観光客の傾向と対策や、カタカナ接客英会話をご紹介します。

★52 一般社団法人和RING-PROJECT

岩手県沿岸被災地における内職しごと生き甲斐づくり

岩手県大槌町で、間伐から製造まで地元の業者や福祉事業所と連携して、地元の木材を使って木工製品を作っています。家具は災害公営住宅や住宅、店舗再建された方から完全オーダーメイド、小物などは外部からのアドバイスや注文で制作しています。

コミュニティ・まちづくり・防災

53 「生きる力」市民運動化プロジェクト

- ・被災訓練プログラム SENDAI CAMP
- ・防災・減災の知恵「みんなの防災手帳」

災害大国日本において一人一人の持つ『生きる力（＝災害から生きのびる力）』を高めることを目的とし開発した、実践的な防災ツール「みんなの防災手帳」と被災訓練プログラム「BOSAI CAMP」の紹介。

★55 岩手県大槌町

大槌町コミュニティ形成プロジェクト

東日本大震災津波により壊滅的に被災した沿岸部、人口減少が著しい山間部、災害公営住宅の建設ラッシュが続く中間部、それぞれ違うコミュニティの課題解決に取り組む大槌町の現実をお知らせします。

★57 大槌コミュニティ再生会議

大槌まちゼミ：高校生・若者による地域ビジネス支援の展開

大槌の高校生、若者のコミュニティ形成や新しい職作りの活動を支援しています。

★59 NPO法人吉里吉里国

『復活の森』、『復活の薪』で地域創生！！

震災により吉里吉里の海も、街も、働く場もなくなりましたが、山だけは津波の前と同じ姿で残ってくれました。助けてもらった命を活かすため、樵（きこり）になろうと思いました。自分の持てるすべてを、森に捧げようと決めたのです。津波の前よりも、もっと豊かな森と海を再生させるために！

★54 石巻市地域包括ケア推進協議会

石巻市における地域包括ケアシステム構築の取組（認知症予防を含む次世代型地域包括ケアシステム推進指標づくり）

石巻市における、被災した高齢者を中心とした市民が新たな住環境において、認知症を含む心身の状況が変わっても安心して暮らしてゆける地域づくり、医療・介護の連携体制づくりの取組紹介。東北大学と共同した被災者の認知機能調査も実施。（一部地域）

★56 エコEVカーシェアリング事業検討委員会

『石巻コミュニティ・カーシェアリング』と『NPO向け車両サポート』のご案内

石巻市内の復興公営住宅に太陽光発電で充電するEV（電気自動車）シェアリングの仕組みを導入し、住民自らの自助・共助によるコミュニティ形成・移動支援・防災意識を醸成する事業を紹介。NPOや支援団体向けの車両サポートについてもご案内いたします。

★58 釜石リージョナルコーディネーター協議会

かまいし包括ケア“みんなの”プロジェクト

地域包括ケアシステムを効果的に機能させるためには、地域が生活支援・介護予防等の担い手になることが必要です。本事業は復興公営住宅入居者や自力再建者が地域から孤立することを防ぎ、生活支援等の「互助」を機能させるための基盤作りをコミュニティ支援団体、福祉団体、行政が一体となって行います。

★60 一般社団法人GEN・J（ジェンダー・イコーリティ・ネットワーク・ジャパン）

「買い物代行×見守り」事業構築プロジェクト

被災地でニーズの高い「買い物代行と見守り」事業について、被災地のニーズに応えつつ、当該事業の事業化及び普及拡大可能な民間事業経営モデルを検討する。買い物代行の商品購入先として地元の商店等と連携する仕組みを導入し、地元商業の活性化にも貢献する。

★61 NPO法人スマイルスタイル

高校生百貨店

「高校生百貨店」は、石巻・女川の高校生のアントレプレナーシップ育成プログラムです。高校生がワークショップやレクチャーを通して地元の魅力ある商品を発掘し、実際に百貨店を開店。つくり手の「想い」や「背景」の発信を行い、地域おこしに繋がります。

★63 NPO法人全国コミュニティライフサポートセンター

地域支え合い活動の立ち上げ支援講座と、制度外の生活支援拠点の実践

改正介護保険制度の地域支援事業などで、担い手として期待が高まる住民主体の支え合い活動の立ち上げを支援する講座と、制度の狭間で行き場に困った人の生活を支える拠点（ひなたぼっこ／仙台市青葉区、あがらいん／石巻市）の取り組みを紹介します。

★65 公益社団法人日本栄養士会

東北発第2弾☆ほっこり・ふれあい食事プロジェクト

地域における高齢者の新たなコミュニティ形成、健康増進等に向けて、栄養と食をキーワードに保育所等を拠点とする『ほっこり・ふれあい食事プロジェクト』の紹介。高齢者と子どもとのふれあいを通じて孤食、生活不活発病予防等の課題解決を目指しています。

67 NPO法人日本冒険遊び場づくり協会

地域マネジメント施策としての子どもの遊び場づくり

被災地域における「遊びを通じた子どもの心のケア活動」を行う中で、自然豊かな地域でありながら、子どもたちは震災前から外で遊んでいなかったことが発見された。今、子どもが自由に遊べる遊び場づくりは、日本全国共通の地域マネジメント上の課題です。

69 株式会社日立ソリューションズ東日本

地域に根ざしたICTサービス活用による頑健で活力ある街づくり

ICTによる活発な地域コミュニケーションで「防災」「観光」「高齢者」「子育て」など様々な地域課題の解決策の検討・実行を促すという、地方創生の実現に向けた取組を行っています。来年度に提供予定のサービスを中心に、この取組についてご紹介します。

●71 一般社団法人南三陸町観光協会

防災キャンプ「そなえ」

「知る」から「できる」そなえへ地震 津波 土砂崩れ 集中豪雨。天災はいつどこで起きるか分からない。予測が全くつかない明日への備えはできているのだろうか。万が一災害が起きた後、とっさに今やるべき行動を考えられるか、優先事項は何か。物資の備えだけでなく、心の備え。

★73 若者支援全国協同連絡会議

若者を主体に変えるリーダー育成と全国サポート体制構築プロジェクト

今、将来が見えにくい福島において、全国の若者支援の実践者や研究者を迎え、総合的な若者支援の新たな取り組みを見出していくために開催する「第11回全国若者・ひきこもり協同実践交流会inふくしま」（2月27・28日）へ向けての活動を紹介します。

★62 一般社団法人SAVE TAKATA

農業を通じた交流・移住促進、後継者創出事業

陸前高田産「米崎りんご」の農家が抱える地域課題の解決と、「若年無業者」の自立を目指す社会課題の解決を通じた、交流人口の増加、後継者創出に繋がる移住促進を目指した取組みの紹介

★64 田村地域デザインセンター

公・民・学連携による地域主体の地域再生拠点づくりプログラム

行政、住民団体、大学らによる公・民・学連携のまちづくりセンター（UDCT）（H₂O設立）を中心に、地域資源を活かし、暮らし続けるための拠点づくりについて、地域とともに計画立案し、初動活動の施行について社会実験を実施しています。

★66 一般社団法人日本公園緑地協会

地域の遊び場づくり支援事業（健やかな子どもの成長を育む地域の遊び場プロジェクト）

（特非）冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークでは、子どもの健やかな育成環境と地域コミュニティの再構築への貢献を目的に、仙台市、岩沼市で仮設住宅や復興住宅周辺の公園や農環境を利用したあそび場を展開しています。これまでの活動をご紹介します。

★68 パナソニックシステムネットワークス株式会社 システムソリューションズジャパンカンパニー 東北社

スマートバス停モデルの推進

地域の公共交通として重要な役割を担っているコミュニティバスの利便性向上による利用者増を目的として、バスの運行管理やバス停に設置したディスプレイへ運行状況、防災や観光情報を表示できる安価なシステムを構築する取り組みを行っています。

70 変幻自在合同会社

買い物弱者を救い、地元経済を再生する「公共商店」

交通インフラが不足する過疎地で高齢者が交通弱者・買い物弱者化している。そこで近所に買い物の場がない高齢者のための無人販売所を立ち上げたのが当プロジェクト。高齢者ユーザーに使いやすいICT技術設計！

★72 NPO法人りくカフェ

コミュニティカフェを核とした健康づくり

減塩・低カロリーの健康ランチを提供しているコミュニティカフェです。昨年度から、新たな取組みとして、高齢者を対象にした介護予防事業（通称：スマートクラブ）をはじめました。食事・運動・生きがいづくりに「楽しく」取り組めるプログラムが特徴です。

支援団体等

※ ★印：平成27年度「新しい東北」先導モデル事業 実施団体
※ ●印：「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2015受賞団体
※ ◆印：復興庁「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」掲載事業者

74 国立大学法人岩手大学

国立大学法人岩手大学

岩手大学では、教育支援、生活支援、水産業復興推進等の六部門からなる三陸復興推進機構を立ち上げ、「『岩手の復興と再生に』オール岩大パワーを」を合い言葉に教職員、学生が一丸となって、復興支援活動に取り組んでいます。

76 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

JST復興促進センターの取り組み・成果

復興促進プログラム（被災地企業と大学等との共同研究開発）で支援してきた中で顕著な結果が得られた「宮城県漁業協同組合」の成果品を展示します。ワカメの残渣物で豚の飼育に組み込み、飼料効率の向上と免疫能の向上を確認しました。

78 東北大学大学院農学研究科 東北復興農学センター

東北大学大学院農学研究科 東北復興農学センター

平成28年4月で開所3年度目を迎える。大規模自然災害、環境劣化、感染症等の諸課題について学際的視点から研究を行うとともに、復興農学マスター・IT農業マスターの各教育コースを設け、一般社会人や学生に対し復興を牽引する人材の育成を行っている。

80 株式会社日本政策投資銀行

震災復興への日本政策投資銀行（DBJ）の取り組み

ファンド等による「復興・成長」を支援するリスクマネーの供給、地域資源を活用した観光と食のコラボレーション創出や日本酒の消費拡大に向けた仕掛けなど支援先企業の価値向上への取り組み等、DBJの創造的復興に向けた取組をご紹介します。

★82 一般社団法人東の食の会

東の食の実行会議「2020年までに東北の食が目指すアクションとビジョン」

「東の食の実行会議」は、東北内外の食のキーパーソン、リソースを結集し、産業復興を加速させるアクションを生み出す活動です。実際に生まれた事例の紹介と、東北の食産業が目指す方向性に関する意見交換を行う予定です。

84 株式会社マイナビ

株式会社マイナビ

弊社が取り組ませて頂いております国および自治体様の地域創生および復興支援事業の実績のご紹介のほか、今春スタート予定の地域毎の課題を共創の想いをもって解決していく学び場の取組みを併せてご紹介申し上げます。

86 宮城県 経済商工観光部

宮城県 観光・伝統工芸品・中小企業施策等のPRブース

宮城県の観光スポット、伝統工芸品、中小企業施策等の紹介を行います。ぜひブースにお立ち寄りください。

88 宮城県 農林水産部 食産業振興課

食材王国みやぎ

宮城県は豊かな自然に囲まれ、新鮮な魚介類や旬の野菜など、海・山・大地が育む四季折々の多彩で豊かな食材に恵まれた「食材王国」です。「食材王国みやぎ」の取組や魅力についてご紹介します。

★75 NPO法人wiz

地域での実践型インターンシップと地域特化クラウドファンディングの実践

復興、地方創生に向けた2つの取り組みとして、地域企業と県内外の学生との実践型インターンシップのコーディネート、地域特化クラウドファンディングでの県内活動者と県外にいる岩手に関わる人との接点を作り、将来的なU・Iターンにつなげる

★77 企業による「東北支援スモールスタートモデル」研究会

企業による”地方創生チャレンジ in 東北”

復興の過程で立ち上がった事業は今まさに基盤構築の時で企業の支援が効果的である。また現地事業と企業の連携からは「人口減少社会の日本の未来」を示せる可能性も出てきている。本事業は企業の連携の仕方や可能性を示し、継続して関わる企業を増やしていく。

79 独立行政法人都市再生機構（UR都市機構）

UR都市機構の復興支援の取り組み

UR都市機構の復興まちづくり支援について、取り組み内容や進捗状況をまとめたパネル掲示・パンフレット配布を行います。また、被災地への民間企業等の進出・連携についてもご相談ください。

★81 日本百貨店協会

東北発！「百貨店推奨ブランド」育成プロジェクト

日本百貨店協会では、被災地の販路拡大に向けて、まだ全国的に知られていない東北の優れた商品の紹介を行っています。

83 プライスウォーターハウスクーパース株式会社

地域の悩み・未来に寄り添うアドバイザー

岩手県では三陸沿岸を中心に中小規模事業者のビジネス支援（会計相談・販路開拓）を実施しました。福島県では双葉郡教育復興ビジョンの実現に向けた計画策定・実行支援も行っています。地域の悩み・未来に寄り添うアドバイザーとしてこれからも活動します。

85 株式会社みずほ銀行

<みずほ>の復興支援活動

みずほフィナンシャルグループは、被災地でさまざまな活動を行っています。それらをご紹介するとともに、今後に向けた新たな出会いがあればと考えております。

87 宮城県 震災復興・企画部

復興の進捗状況等の紹介

宮城県の復興の進捗状況や首都圏等からの移住・定住の流れをつくる地方創生の取り組み「ちょうどいい、宮城県。」についてご紹介します。

89 宮城県 農林水産部 水産業振興課

みやぎ水産の日

「みやぎ水産の日」とは、宮城県内で獲れるおいしい水産物や、水産加工品を、県民や全国の皆様にもっともっと知ってもらい、食べてもらうために、宮城県が制定しました。震災からの復興を図るため、県内水産物の消費拡大を目指します。ぜひお越しください。

※ ★印：平成27年度「新しい東北」先導モデル事業 実施団体
※ ●印：「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2015受賞団体
※ ◆印：復興庁「私たちが創る～産業復興創造 東北の経営者たち～」掲載事業者

90 宮城県 農林水産部 全国和牛能力共進会推進室

第11回全国和牛能力共進会

“和牛のオリンピック”とも呼ばれ、5年に一度しか開催されない国内最大の和牛のコンテストが平成29年9月7日、夢メッセみやぎで開催されます。宮城県の魅力が満載の楽しくて、美味しいイベントも同時開催されます。

92 ロート製薬株式会社

ロート製薬株式会社

調整中

91 宮城県多賀城高等学校

防災教育紹介

この4月から全国2例目となる防災系学科「災害科学科」が多賀城高校に開設されます。これまで本校が行ってきた防災・減災教育の取り組みを紹介します。

相談コーナー

様々な分野の支援団体にお集まりいただき、実際に復興の現場で活動している団体が抱えている課題などについて、ブースでの相談を受け付けています。

★93 株式会社オリコム

免税店申請等の支援

宮城県、岩手県、福島県の事業者の免税店申請及び販売支援・情報発信を行っています。計8回の説明会の開催のほか、申請及び運営に関するマニュアルの作成や海外向け日本ショッピングポータルサイトでの情報発信等を実施しています。

95 株式会社仙台銀行

仙台銀行相談ブース

当行職員のうち、有資格者6名（中小企業診断士・不動産鑑定士・農業経営アドバイザー・ファイナンシャルプランニング技能士・M&Aシニアアドバイザー・医療経営士）が各分野の幅広いご相談に応じます！

94 株式会社ジェイティービー

株式会社ジェイティービー ～ともに進む、あしたへつなぐ東北の未来～

JTBグループは旅のチカラでひとびとの交流を創造し、東北の方々と共に魅力ある東北の未来に向け、貢献して参ります。

96 株式会社日本政策金融公庫

株式会社日本政策金融公庫

政策金融機関として、地域や社会の課題解決に取り組まれている中小企業、小規模事業者、農林漁業者やNPO等のみなさまをサポートいたします

★97 日本百貨店協会

東北発！「百貨店推奨ブランド」育成プロジェクト（東北支援アドバイスチーム）

「専門家による商品アドバイス」にも登壇する百貨店OB（東北支援アドバイスチーム）が、バイヤーの視点から、商品開発・販路拡大に向けた具体的な商品アドバイスについて、個別アドバイスを行います。

★98 福島復興暮らしと仕事安定化協議会（スターリングパートナーズ合同会社、奥地建産株式会社、山本隆久税理士事務所）

福島復興暮らしと仕事安定化協議会

復興街づくりに地元資金を活かす事業を“絵に描いた餅”にすることなく収益をあげ、安定化するには、事業化調査が必要不可欠なプロセスです。本調査書（暫定稿）を紹介しながら、地元投資家様等とのディスカッションを考えております。

★99 一般社団法人Bridge for Fukushima

届け、この想い - ハイスchoolピッチ

福島県の将来を担う高校生が、様々なノウハウやリソースを持ったNPO法人や企業のアドバイスを受けつつ、地域課題の解決策を提案（ピッチ）するとともに、クラウドファンディングの仕組みを活用し、解決策を実行に移すための資金を確保するための事業です。

100 楽天株式会社

楽天市場のECコンサルタントがサポートします

楽天市場は国内最大級のインターネットショッピングモールとして、4万店舗以上の大小様々な事業者にご出店を頂き、楽天グループ会員数は1億人を、年間流通総額は2兆円を突破しました。より多くの企業様の売上増大のご提案とサポート、各地域の行政とも連携をとり「日本を元気に！」というスローガンのもと取り組みを行っています。

★101 リアス食べ尽しの会

リアス食べ尽しの会

リアス式海岸のある三陸で水揚げされた水産加工品を安価に輸送して、首都圏で新たな販路で販売することと更に海外に輸出することを目指しています。

102 株式会社ローソン

株式会社ローソン

首都圏120店舗を展開するナチュラルローソン。ナチュラルローソンでの商品取り扱い相談や商品開発・販路拡大に向けた具体的な商品へのアドバイスをさせていただきます。

プレゼンテーション

13:40-16:30

産業・なりわいやコミュニティ・まちづくり・防災などの様々な分野で、これまでの手法や発想にとらわれない「新たな挑戦」に取り組む団体の方に、取組の内容をプレゼンテーション形式で紹介していただきます。

被災地で新たなビジネスに取り組まれている事業者の方や、地域における高齢者のコミュニティ形成に向けた取組、防災の取組を行う団体の方などによるプレゼンテーションが行われます。どの団体もホールでブースを出展していますので、プレゼンテーションを聞いて関心を持った方は、その団体のブース出展場所に行って、意見交換をしてみましょう。

※発表時間は近日中に公表します。※

発表団体（50音順）

- ・ 会津土建株式会社（福島県CLT推進協議会）
- ・ 会津若松酒造協同組合
- ・ アンデックス株式会社
- ・ NPO法人wiz
- ・ エコEVカーシェアリング事業検討委員会
- ・ 釜石リージョナルコーディネーター協議会
- ・ 川俣町山木屋農業復興会議
- ・ 一般社団法人コミュニティスペースうみねこ
- ・ NPO法人スマイルスタイル
- ・ 一般社団法人SAVE TAKATA
- ・ 有限責任事業組合 地域創生ビジョン研究所
- ・ 株式会社トラベリエンス
- ・ ナタネによる東北復興プロジェクト会議
- ・ 公益社団法人日本栄養士会
- ・ 日本百貨店協会
- ・ 一般社団法人日本葡萄酒革進協会
- ・ 一般社団法人東の食の会
- ・ 一般社団法人東松島みらいとし機構
- ・ 福島復興暮らしと仕事安定化協議会（スターリングパートナーズ合同会社、奥地建産株式会社、山本隆久税理士事務所）
- ・ 宮城県多賀城高等学校
- ・ 株式会社有紀
- ・ リアス食べ尽しの会
- ・ 若者支援全国協同連絡会議
- ・ 株式会社WATALIS

[協力：日本百貨店協会、「世界にも通用する究極のお土産」審査員など]

「東北発！百貨店推奨ブランド」プロジェクトを推進する百貨店のOBや「世界にも通用する究極のお土産」の審査員関係者を中心とした専門家の方々に、バイヤーの視点から商品開発・販路拡大に向けた具体的な商品へのアドバイスを行っていただきます。様々な視点からの的確なアドバイスを、どなたでもお聴きいただくことが可能です。※アドバイス対象の商品は事前登録制になっています。

専門家

《日本百貨店協会 東北支援アドバイスチーム（※百貨店のOBチーム）》

船津 芳夫 氏（株式会社三越伊勢丹雑貨部長・千葉店長・銀座店舗開発役員などを歴任）

松下 成裕 氏（株式会社三越伊勢丹食品部長、商品本部フード商品部長等を歴任）

《世界にも通用する究極のお土産 審査員など》

荒木 真司 氏（楽天株式会社 楽天市場事業 地域活性部 地域活性コンサルティンググループ ECコンサルタント）

太田 峻文 氏（楽天株式会社 楽天市場事業 リテール東日本事業部 東日本エリアグループ ECコンサルタント）

柴崎 誠 氏（株式会社ローソン ナチュラルローソン商品部マーチャンダイザー）

進行

西田 光宏 氏（日本百貨店協会 常務理事）

ホール ブース出展エリアの「相談コーナー」でも専門家によるアドバイスを行います！【予約不要】

※専門家がブースにいらっしゃる時間帯がありますので、予めご了承ください。

NOTE

「東北発！百貨店推奨ブランド」

百貨店の現役バイヤー・OBが東北地方ならではの優れた地域資源や伝統工芸品を発掘・紹介し、東北の魅力を全国に伝え、多くのファンを増やしていこうとする取組です。

※平成26・27年度「新しい東北」先導モデル事業として実施しています。

WEBサイト：<https://www.depart-tohoku.jp/>



「世界にも通用する究極のお土産ー「新しい東北」の挑戦ー」

東北から世界へ。東北を代表する食品を発掘するコンテスト「世界にも通用する究極のお土産ー新しい東北の挑戦ー」を実施。東北6県から募った496品のお土産の中から、味、品質、デザイン、ストーリーなどを評価され、112品がノミネート、10品が選定されました。東北のストーリーが織り込まれた食品が東北の挑戦の成果を全国に伝えます。

※平成27年度「新しい東北」官民共同PR事業として実施しています。

WEBサイト：<http://www.newtohoku.org/promotion/omiyage>



「復興支援インターン」活動報告

16:20-16:45

復興大学主催の「復興支援インターン」に参加した学生による活動報告会を行います。被災地企業での活動、情報発信等の取組や今後の展望などについて報告します。

報告者

東北公益文科大学、立命館大学、早稲田大学の学生各1名

NOTE 「復興支援インターン」とは

日本全国の大学生が、被災企業で職業体験を実施し、職業体験を通じて感じ・学んだ被災地及び被災地産業の現状を、全国各地で情報発信することで、風化・風評の抑制や被災地産業の復興ひいては被災地全体の復興に繋げることを目的とするプログラムです。

「組織活性化研修」取組発表

13:30-14:40

「地域づくりネットワーク」の取組の1つとして、平成27年9月に被災地自治体職員を対象とした「組織活性化研修」を島根県海士町で実施しました。海士町の方をお招きし、参加した自治体職員が本研修の成果等を発表します。

モデレーター

阿部 裕志 氏（株式会社巡の環代表取締役）

事例発表

岩手県久慈市、宮城県女川町、福島県葛尾村からの研修参加職員

NOTE 「地域づくりネットワーク」とは

「地域づくりネットワーク」は、平成27年2月に設立された、被災地の自治体により構成される「新しい東北」官民連携推進協議会の分科会の1つです。「組織活性化研修」を実施した島根県海士町は、地方創生の挑戦事例と言われると同時に、「挑戦が生まれやすい風土」が自治体内部に根付きつつあります。

文化芸術による復興創生へ ～復興から創生へ向けての新たな挑戦～

[協力：文化芸術による復興推進コンソーシアム]

15:00-16:50

◆ パネルディスカッション

文化芸術を活用した復興支援の活動を振り返るとともに、文化芸術が今後の復興に果たす役割や、文化芸術からの地方創生について、一緒に考えます。

登壇者

川延 安直 氏

（森のはこ舟アートプロジェクト実行委員会）



神奈川県藤沢市生まれ。岡山県立美術館を経て、現在福島県立博物館専門学芸員。県立博物館の学芸員として、「森のはこ舟アートプロジェクト」、福島県内の連携を図る目的で立ち上げられた「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」、福島県内の学校の授業への協力等、福島県の文化を活かした活動は多岐に渡る。

佐久間 智子 氏

（花とアートで再生復興プロジェクト委員会）



石巻市出身。現在は、企画デザイン会社スペース・クリエイティブ代表。子どもの頃から、演劇・油絵と芸術に携わり、東日本大震災をきっかけに、故郷、石巻市の復興に自分でできる事で役立ちたいと東京のアート仲間達と南浜復興祈念公園（仮）に“花と先端アートのアートビレッジ構想”を提案している。

佐東 範一 氏

（三陸国際芸術祭／NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN））



北海道生まれ。'80-95舞踏グループ「白虎社」で舞踏手兼制作者として活動。3年間の準備期間を経て、2001年NPO法人NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク（JCDN）を京都にて設立。「踊りに行くぜ!!!」「コミュニティダンス」「三陸国際芸術祭」など、日本全国で社会とダンスを繋ぐ様々な活動を行っている。

本杉 省三 氏

（文化芸術による復興推進コンソーシアム）



日本大学理工学部教授（工学博士）日本大学大学院修了後、同大学助手、ベルリン自由大学演劇研究所留学（DAAD奨学生）等を経て現職。劇場に関する研究活動の他、新国立劇場、愛知芸術文化センター、まつもと市民芸術館等多くの劇場計画・設計に関わる。

進行

桜井 俊幸 氏（文化芸術による復興推進コンソーシアム・東京事務所長）

このほか、パネル展示や交流会の最後に伝統芸能の公演を予定しています！

「ホテル3階 宮城野」

移住者公開座談会

13:30-16:40

～被災地でつけたものとこれからのこと～

宮城県では被災地支援をきっかけとして県内に移住する方々が現れ始めています。移住者の方々はこれまで地域が気づいていなかった魅力をヨソモノ視点で発掘し、地域外へ発信するなど新しい価値を地域とともに生み出しています。そうした方々のこれからの展望を聴き、来場者の方も含めて、今後の地域づくりに向けたヒントを探っていきます。

宮城野

移住ブース
コーナー

ステージ

ワンハンドフード
試食コーナー

移住ブース
コーナー

ステージプログラム

13:40-14:10 ゲストトーク① 中村 真広 氏（株式会社ツクルバ 代表取締役CCO）

14:15-14:45 ゲストトーク② 小松 理虔 氏（ヘキレキ舎、コミュニティアクティビスト）

15:00-16:30 公開座談会

登壇者

渡邊 享子 氏（合同会社巻組 代表社員／宮城県石巻市）

厨 勝義 氏（株式会社アイローカル 代表取締役／宮城県南三陸町）

島本 幸奈 氏（一般社団法人FISHERMAN JAPAN マネージャー／宮城県石巻市）

高橋 未来 氏（一般社団法人南三陸町観光協会／宮城県南三陸町）

加藤 拓馬 氏（一般社団法人まるオフィス 代表理事／宮城県気仙沼市）

中村 真広 氏（株式会社ツクルバ 代表取締役CCO）

小松 理虔 氏（ヘキレキ舎、コミュニティアクティビスト）

モデレーター

山内 亮太 氏（NPO法人ETIC、株式会社南三陸まちづくり未来／宮城県南三陸町）

移住ブースコーナー

公開座談会にも登壇する移住者の彼らが、地域に密接にかかわった新しいライフスタイルをご紹介します。

- ・合同会社巻組（石巻市）
- ・株式会社アイローカル（南三陸町）
- ・一般社団法人FISHERMAN JAPAN（石巻市）
- ・一般社団法人南三陸町観光協会（南三陸町）
- ・一般社団法人まるオフィス（気仙沼市）

復興庁 宮城復興局おすすめワンハンドフード

13:30-16:40

片手に持って手軽に食べられる「ワンハンドフード」を手に、復興の進みつつある宮城沿岸部を巡り歩いてほしい。そんな思いから作成した復興庁 宮城復興局（※）職員おすすめのワンハンドフードを紹介する冊子を展示・配布するとともに、一部試食もお楽しみいただけます。

ワンハンドフード試食コーナー

- ・「こぼらば」のカツオのたまご（気仙沼市）
- ・「九菜や」「アリスボックス」の気仙沼ライスコロッケ（気仙沼市）
- ・「気仙沼パン工房」のクリームサンド（気仙沼市）
- ・「田東山麓自然卵農園直営 自然卵のクレープ モアイ店」の自然卵クレープ（南三陸町）
- ・「鮮魚マルセン」のかまぼこコロッケ（南三陸町）
- ・「果樹園カフェ ゆめハウス」のさんまなたい焼き（女川町）
- ・「おちゃっこクラブ」のホヤ塩ソフトクリームのホヤ塩（女川町）
- ・「タガの柵」の阿久玉餅（多賀城市）



※試食はなくなり次第、終了とさせていただきます。

（※）復興庁 宮城復興局 企業連携推進室 観光プロジェクトチーム
では被災地の魅力的なヒト・モノを地元目線で発掘し、情報
発信を行っています。

≪その他の企画≫

パネル展示

ホテル3階

ホール ホワイエ

13:00-17:45

東北で進む「新たな挑戦」や復興支援の取組を、パネルや映像で紹介します。

【展示内容】

➤ 「新しい東北」先導モデル事業者の取組

復興庁が被災地で「新たな挑戦」に取り組む活動を支援する「新しい東北」先導モデル事業の実施事業者の方の活動内容をご紹介します。

➤ 「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2015受賞者の取組

「新しい東北」官民連携推進協議会で実施した「新しい東北」復興ビジネスコンテスト2015の受賞者（ビジネス部門17件、アイデア部門4件）の活動内容をご紹介します。

➤ 会員企業の取組

会員団体の皆様の復興支援活動をご紹介します。

➤ 復興庁事業（企業連携による産業復興、「WORK FOR 東北」事業など）

復興庁が実施する企業連携による産業復興について（地域復興マッチング「結の場」、被災地域企業新事業、ハンズオン支援事業、新規ビジネス等支援専門家プール、企業復興支援ネットワークなど）や、「WORK FOR 東北」について紹介します。

映像上映コーナー

ホール ホワイエ

13:00-17:45

会員団体の取組を、映像で紹介します。

映像提供団体

岩手県／福島県福島市／特定非営利活動法人いわて連携復興センター／国立大学法人東北大学／国立大学法人福島大学／公立大学法人仙台大学／農林中央金庫／アサヒグループホールディングス株式会社／カムイの森有限会社／株式会社仙台銀行／特定非営利活動法人郡山バップ子育てネットワーク／一般社団法人日本カーシェアリング協会／一般社団法人南三陸町観光協会／東北☆家族プロジェクト／文化芸術による復興推進コンソーシアム

懇親会（参加無料）

ホテル3階 クリスタル

17:00-17:45

各企画のご登壇者やご出展いただいた「新たな挑戦」に取り組む事業者の方をはじめとする来場者の皆様と、ご自由に懇談いただけます。

特別公演

かづましおどり

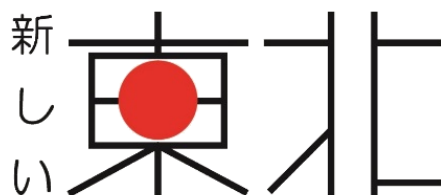
鹿妻鹿踊り（鹿妻鹿踊り保存会／宮城県東松島市）

[協力：文化芸術による復興推進コンソーシアム]



～鹿妻鹿踊り保存会からのメッセージ～

私たちは、宮城県東松島市矢本鹿妻地区に伝わる鹿踊り保存会です。江戸時代から伝わる鹿妻鹿踊りは、宮城県北部や岩手県南部に多く見られる8～10人一組で、鹿をかたどった鹿頭をかぶり、背中にササラと呼ばれる長い竹製の道具を背負い、腰に太鼓をさげ、激しく踊る太鼓踊系鹿踊の一種です。二度の戦争により中断しましたが、地区の有志の方々のおかげで復活し、その後は地区全体の皆さんに支えられて活動が来ています。踊り手は地元の小中学生が中心で、後継者・次世代育成にも力を入れています。地元神社の例祭や夏祭りといった、地区での活動が主ですが、最近ではベガルタ仙台のホームゲームの試合前イベントの出演や花巻まつりといった県外出演も行っています。東日本大震災では鹿妻地区の一部も津波の被災を受けており、震災からの復興のプロセスに関わった郷土芸能団体でもあります。



お問い合わせ先 ※ 当交流会の開催については、復興庁からみずほ総合研究所へ委託しています。

「新しい東北」官民連携推進協議会 事務局（復興庁）
（みずほ総合研究所 社会・公共アドバイザー部内）

TEL : 03-3591-8773（平日9時半～17時半）

FAX : 03-3591-8777

E-mail : nt-info@mizuho-ri.co.jp

ウェブサイト : <http://www.newtohoku.org>

Facebook : <https://www.facebook.com/newtohoku>

 いいね!